

若年者の代謝異常に関する研究

研究分野:代謝および内分泌学関連

キーワード:糖尿病、肥満、メタボリックシンドローム、サルコペニア、予防医学

貢献できるSDGsの区分:



看護栄養学部 看護学科 講師 有森春香

教員情報URL <https://sun.ac.jp/researchinfo/arim-haru/>

研究概要

肥満やメタボリックシンドローム、サルコペニアといった代謝異常は世界的な問題であり、特に近年では、小児期や若年成人期からの代謝異常も大きな問題として注目されてきている。

これらの代謝異常には、生活習慣のような環境要因も大きく関わっていることが知られているが、若年者において代謝異常に関連する生活因子についての検討は不十分である。

特に、2020年以上、COVID-19パンデミックを経て、若年者の生活環境は劇的に変化しており、現在の若年者においては、既知の因子以外に、新たな代謝異常に関連する生活因子が存在する可能性がある。

我々はこれまでの研究で、コロナ禍の自粛生活中的若年者の体重増加と外食頻度増加やゲーム時間の延伸が関連することを報告してきた(関連情報参照)。

一方、若年者の極端な体重減少の実態とそのリスク因子についての検証は十分ではない。

そこで今後、COVID-19パンデミックを境に大きく変化した若年者の食事様式に注目し、筋肉量減少やサルコペニアに関連する因子を探索する研究を計画中である。若年者の肥満・メタボリックシンドロームやサルコペニアのような代謝異常に関連する生活因子が明らかになれば、これらの発症・進展予防の早期介入戦略の基礎となるエビデンスを構築できる可能性がある。

関連情報: Arimori et al. Association between Lifestyle Factors and Weight Gain among University Students in Japan during COVID-19 Mild Lockdown: A Quantitative Study. Healthcare (Basel). 2023 Sep 27;11(19):2630. doi: 10.3390/healthcare11192630.

産学連携の可能性(アピールポイント)

代謝異常(肥満、メタボリックシンドローム、サルコペニア)に対する予防戦略構築の一助

外部との連携実績等

現時点で外部との連携実績等はありません。